

証券コード：7681



株式会社 レオクラン

2022年9月期第1四半期 決算補足説明資料

2022年2月14日



決算サマリー

<2022年9月期1Q>

増収・増益

メディカルトータルソリューション事業の医療機器一括販売が想定通り通期計画の過半を1Qで計上。増収・増益を牽引

前期比

+30%超

売上高、営業利益は+30%超、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は+40%超の増加を達成

<2022年9月期通期見通し>

2期連続

メディカルトータルソリューション事業の医療機器一括販売売上高(案件平均単価もUP)の増加により増収を想定

従来想定据置

利益面に対通期進捗率70%超となる好調な推移は、概ね想定通り。足元の状況に変化はなく、従来 of 想定を据置

 **目次**

1	2022年9月第1四半期決算実績	3
2	2022年9月期決算見通し	10
3	業績・財務ハイライト	15



2022年9月期第1四半期 経営成績①

- メディカルトータルソリューション事業では、医療機器一括販売案件が1Qに集中。進行中の案件における追加受注や、2Q以降に見込んでいた案件の前倒し等もあり、前年同期に比べて大幅な増収・増益
- 遠隔画像診断サービス事業では、着実に取扱件数の増加を図り、安定した成長基調を維持
- 給食事業では、前年4Q後半の大口顧客解約の影響が残り減収・減益

経営成績の推移

(百万円)	2021/9期 1Q実績	2022/9期1Q		2022/9期通期	
		実績	前年同期比 増減率	予想	進捗率
売上高	7,971	10,678	+34.0%	27,759	38.5%
メディカルトータルソリューション	7,691	10,404	+35.3%	26,694	39.0%
遠隔画像診断サービス	162	172	+5.9%	645	26.7%
給食	117	100	▲13.8%	420	24.0%
営業利益	405	529	+30.7%	750	70.6%
メディカルトータルソリューション	370	499	+34.8%	666	75.0%
遠隔画像診断サービス	23	26	+13.2%	74	36.3%
給食	9	2	▲76.9%	10	22.1%
調整	0	0	▲9.6%	-	-
経常利益	404	582	+44.1%	800	72.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	265	388	+46.1%	520	74.6%
1株当たり当期純利益 (円)	135.98	197.96	+45.6%	265.32	-



2022年9月期第1四半期 経営成績②

- 当期も上期偏重の収益構造。メディカルトータルソリューション事業の医療機器の一括販売案件は、想定通り、通期計画の過半を1Qで計上し、増収・増益を牽引
- メディカルトータルソリューション事業の各年度・四半期のボラティリティは、狩猟型のビジネスモデルと、取引先の医療機関等の会計年度の関係により、売上計上時期が一時期に集中する傾向があるため。四半期の業績は、通期の業績に連動せず

経営成績の推移

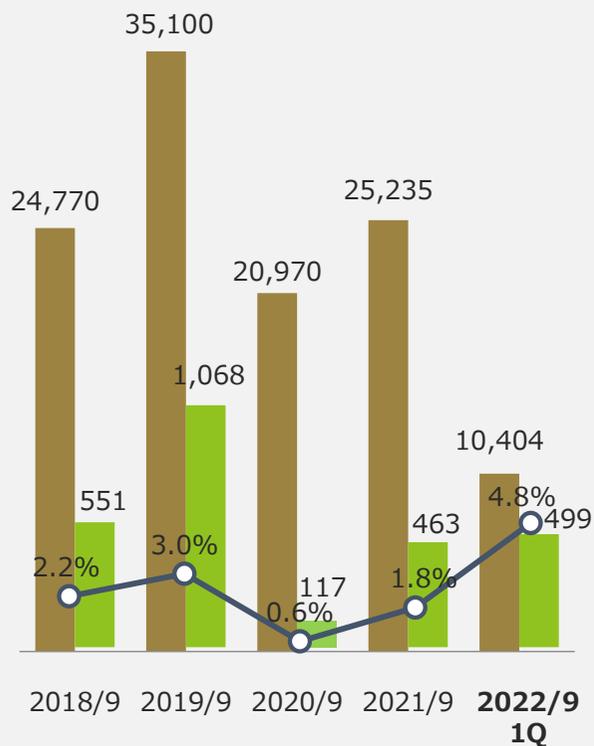
(百万円)	2020/9期			2021/9期				2022/9期	前年比 差異
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	
売上高	6,132	3,384	6,272	7,971	8,907	4,593	4,875	10,678	+2,706
メディカルトータルソリューション	5,886	3,140	5,999	7,691	8,624	4,321	4,598	10,404	+2,712
遠隔画像診断サービス	132	124	157	162	164	155	164	172	+9
給食	113	119	115	117	118	116	112	100	▲16
営業利益	62	▲63	181	405	445	▲64	▲209	529	+124
メディカルトータルソリューション	41	▲80	159	370	410	▲89	▲228	499	+129
遠隔画像診断サービス	8	5	13	23	21	16	10	26	+3
給食	11	11	7	9	12	7	6	2	▲7
調整	0	0	0	0	0	0	0	0	▲0

※ 上記の四半期会計期間の数値については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく有限責任監査法人トーマツの四半期レビューは受けておりません。

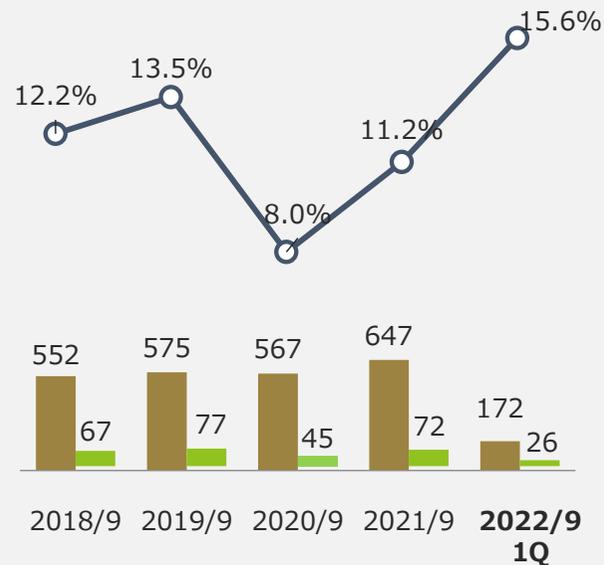
セグメント別業績推移

- **メディカルトータルソリューション事業では、主に増収効果による売上総利益の増加により営業利益率が改善。販管費が想定を若干下回る水準で推移したことも寄与**
- **遠隔画像診断サービス事業でも、主に増収効果により営業利益率が改善。給食事業では、減収による売上総利益の減少により営業利益率が低下**

メディカルトータルソリューション事業



遠隔画像診断サービス事業



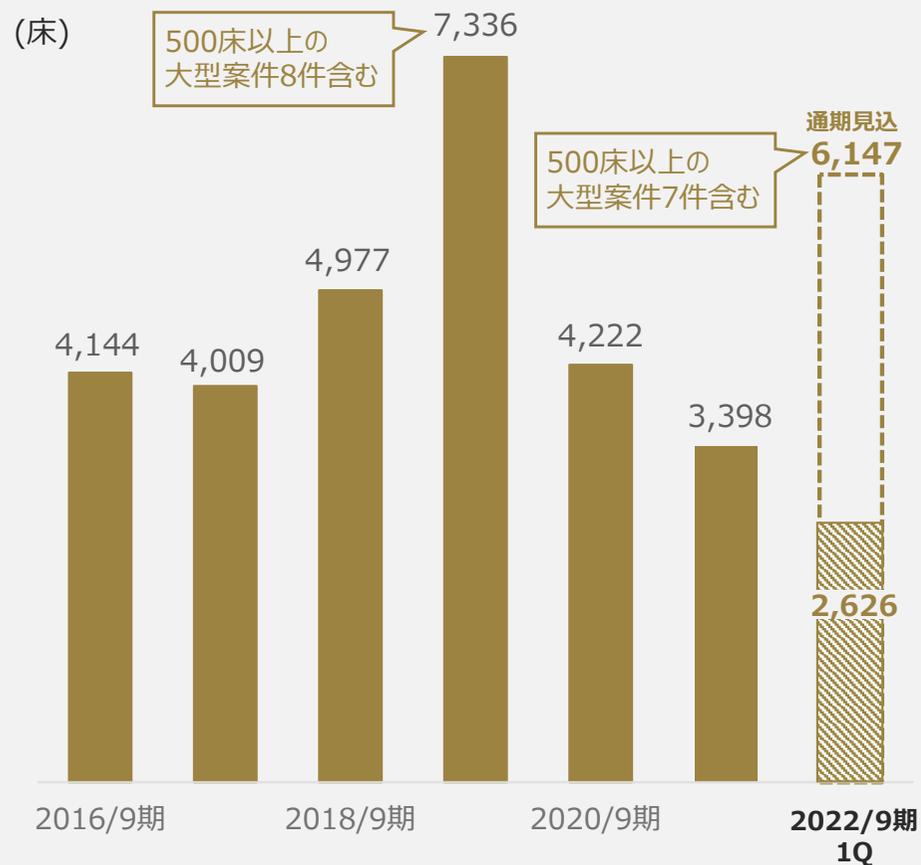
給食事業



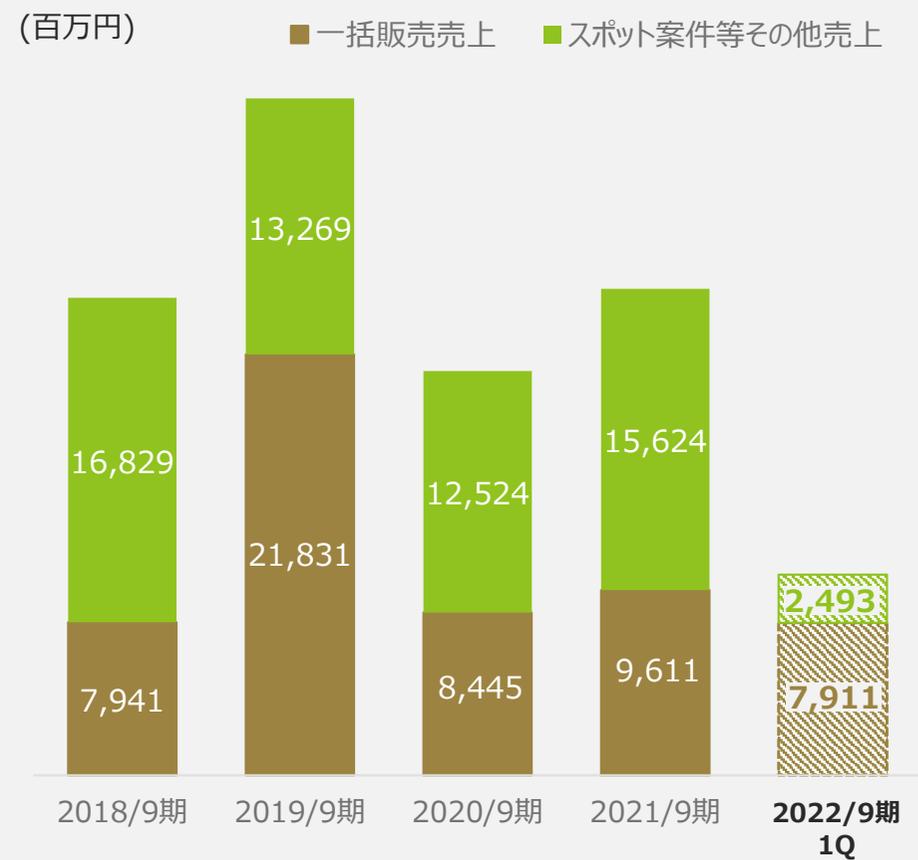
顧客（新規増改築需要）の推移と内訳①

- 2022/9期の新增改築顧客の病床規模は2019/9期に次ぐ3期ぶりの高水準となる見通し
- リプレイス案件の取り込み等、積極的な営業展開により、スポット案件等その他売上也堅調に推移
- 狩猟型の事業スタイルであるため、案件の発生状況に応じて変動が大きくなる傾向は引き続き強い

新規増改築顧客（一般病院）の売上病床数合計推移



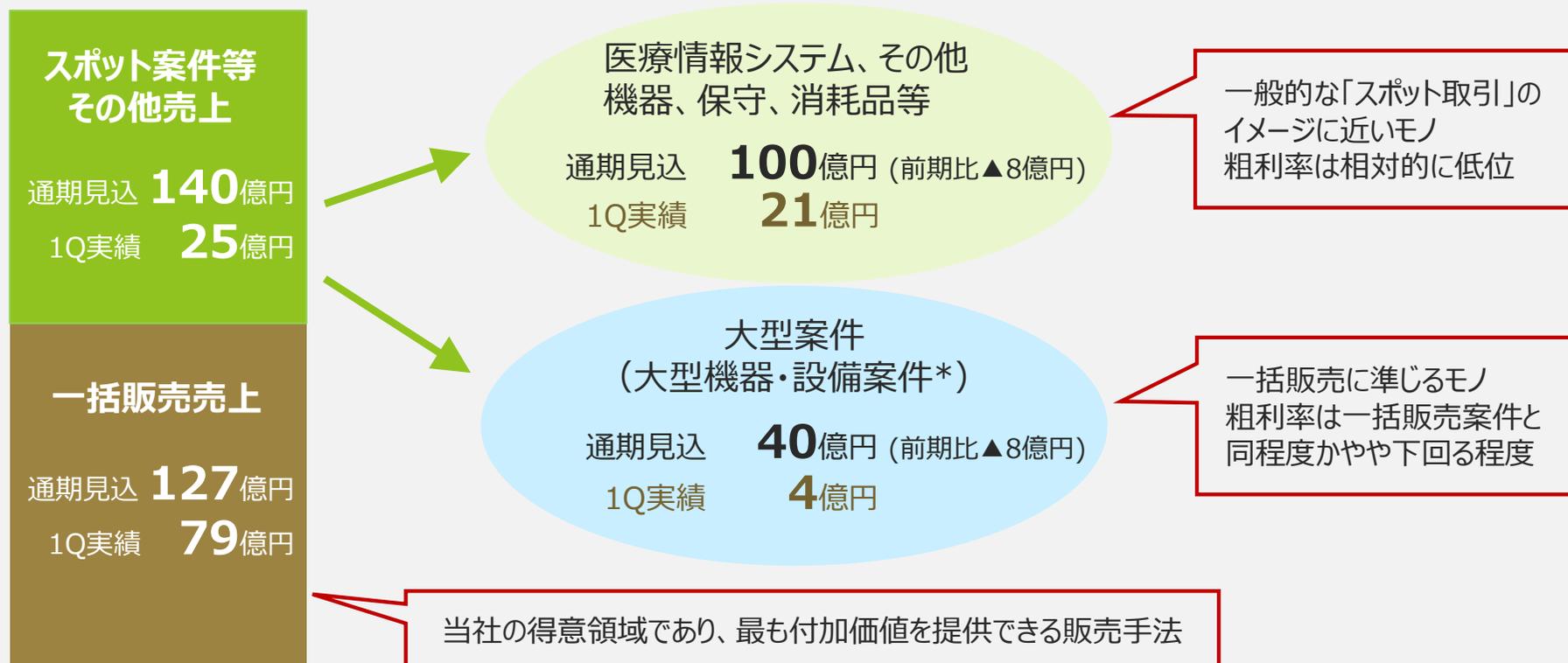
メディカルトータルソリューション事業売上に占める
新規増改築向け一括販売の売上比率推移



顧客（新規増改築需要）の推移と内訳②

- 2021/9期に急拡大した「スポット案件等その他売上」も、当社の得意領域である一括販売に準じた「大型案件」が堅調に推移。大型案件は採算性も一括販売に引けを取らない水準の確保が可能
- 新增改築案件の取込みは当社の最優先課題ながら、新增改築に至らないまでも大型設備投資に踏み切る顧客層は、コロナ対応を急ぐ地方自治体をはじめ、着実に増加中

2022/9期メディカルトータルソリューション事業売上の内訳



2022/9期見込

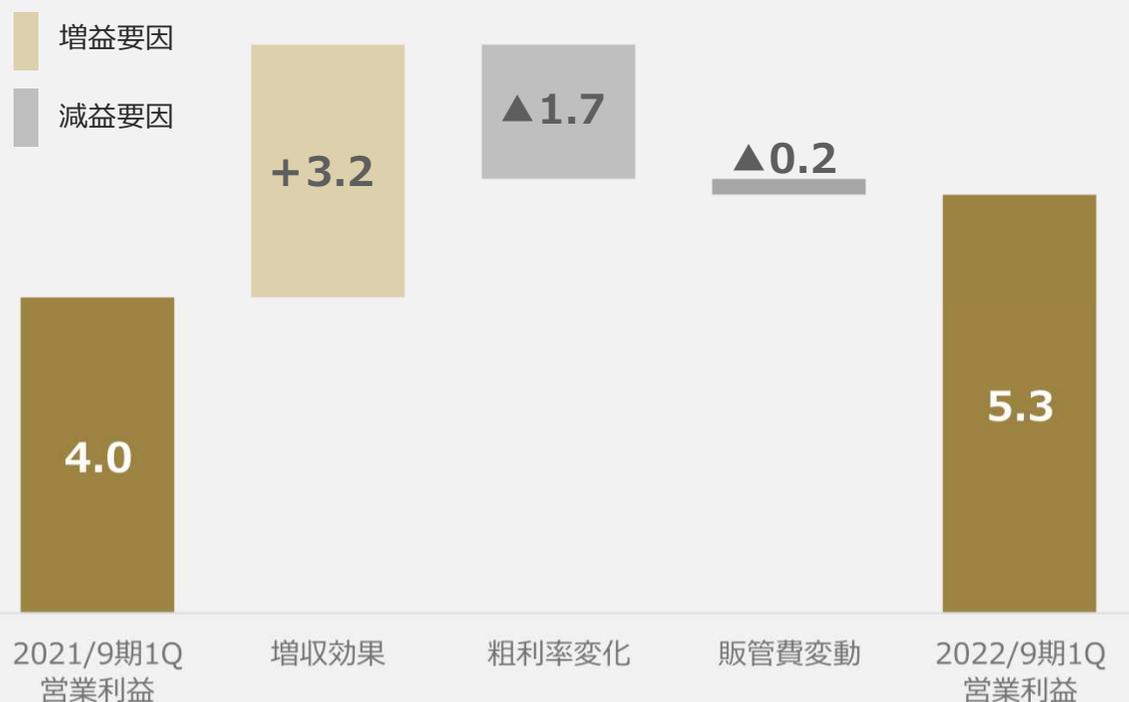
*機器・設備のみで1億円以上の案件と定義

2022年9月期第1四半期 営業利益増減要因分析

- 増益の主因は、増収効果による売上総利益の増加
- メディカルトータルソリューション事業の大型案件等を中心に、受注ボリュームの拡大を優先。但し、顧客からの値下げ圧力や同業他社との価格競争もあり、粗利益率は若干低下
- 販売費及び一般管理費は、売上高の増加幅に比べて抑制基調で推移

営業利益増減益分析

(億円)



- 売上高の増加 +3.2億円
 メディカルトータルソリューション事業において一括販売案件が1Qに偏重。進行中の案件における追加受注や、2Q以降に見込んでいた案件の前倒し等もあり増益に寄与
- 粗利率変化 ▲1.7億円
- 販管費変動 ▲0.2億円



2022年9月期第1四半期 財政状態

- 1Q後半に大型案件の売上計上が集中し、売上債権と仕入債務が両建てで一時的に増加
- 有利子負債はさらに減少。ネットキャッシュ構造に変化はなく、事実上の無借金経営を継続
- 売上債権の増加による総資産の増加により、自己資本比率は29.1%に低下（前期末は38.8%）

財政状態の推移

(百万円)	2020/9期	2021/9期	2022/9期1Q	前期末比差異
流動資産	12,198	11,755	17,018	+5,263
現預金	4,450	5,408	5,024	▲383
受取手形・売掛金	6,652	4,820	10,546	+5,726
棚卸資産	60	188	96	▲92
その他	1,034	1,337	1,350	+13
貸倒引当金	▲0	▲0	▲0	▲0
固定資産	1,215	1,209	1,334	+125
総資産	13,414	12,964	18,353	+5,388
負債	8,596	7,805	12,871	+5,065
買掛金	6,282	4,890	9,996	+5,106
有利子負債	338	127	110	▲17
その他	1,975	2,788	2,764	▲23
純資産	4,817	5,159	5,482	+322
負債純資産合計	13,414	12,964	18,353	+5,388



2022年9月期通期業績予想①

- 従来想定を据置き、前期比増収増益を予想。主力のメディカルトータルソリューション事業では医療機器一括販売に加え、一括販売に準じる大型機器・設備案件の伸張を想定。大型案件が増収の牽引役
- 大型案件による利益拡大のほか、深耕営業による付加価値向上により粗利率向上にも注力
- 今期も医療機器等の一括販売案件が上期に多く、売上高、利益ともに上期偏重の見通し
- コロナ禍の影響はプラス面・マイナス面ともに想定せず。変化があれば臨機応変に対応

経営成績の推移

(百万円)	2020/9期	2021/9期	2022/9期 見通し	前期比較	
				差異	増減率
売上高	21,996	26,347	27,759	+1,412	+5.4%
メディカルトータルソリューション	20,970	25,235	26,694	+1,458	+5.8%
遠隔画像診断サービス	567	647	645	▲2	▲0.3%
給食	458	464	420	▲44	▲9.5%
営業利益	204	576	750	+174	+30.3%
メディカルトータルソリューション	117	463	666	+202	+43.6%
遠隔画像診断サービス	45	72	74	+1	+1.9%
給食	38	36	10	▲26	▲71.5%
調整	3	3	—	—	—
経常利益	207	595	800	+205	+34.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	120	390	520	+129	+33.0%
1株当たり当期純利益 (円)	62.51	199.92	265.32	+65.4	+32.7%

2022年9月期通期業績予想②

- メディカルトータルソリューション事業における病院新增改築案件向け医療機器一括販売では、案件数は多くないものの、20億円以上の大型案件の増加により大幅増収を想定。従来前提に変更なし
- 高単価案件の増加は、利益率改善にも大きく寄与する見通し

メディカルトータルソリューション事業における病院新增改築案件向け医療機器一括販売の推移

(百万円)		2020/9期	2021/9期	2022/9期 見通し	前年比 差異
20億円以上	売上高	2,562	4,739	9,031	+4,291
	件数	1	2	3	+1
	平均単価	2,562	2,369	3,010	+640
10億円以上	売上高	2,954	1,476	—	▲1,476
	件数	2	1	—	▲1
	平均単価	1,477	1,476	—	▲1,476
1億円以上	売上高	2,856	3,305	3,640	+334
	件数	8	10	8	▲2
	平均単価	357	330	455	+124
1億円以下	売上高	71	89	50	▲39
	件数	2	1	1	±0
	平均単価	35	89	50	▲39
合計	売上高	8,445	9,611	12,721	+3,110
	件数	13	14	12	▲2
	平均単価	649	686	1,060	+373
事業売上に占める一括販売比率		40.3%	38.1%	47.7%	+9.6pt

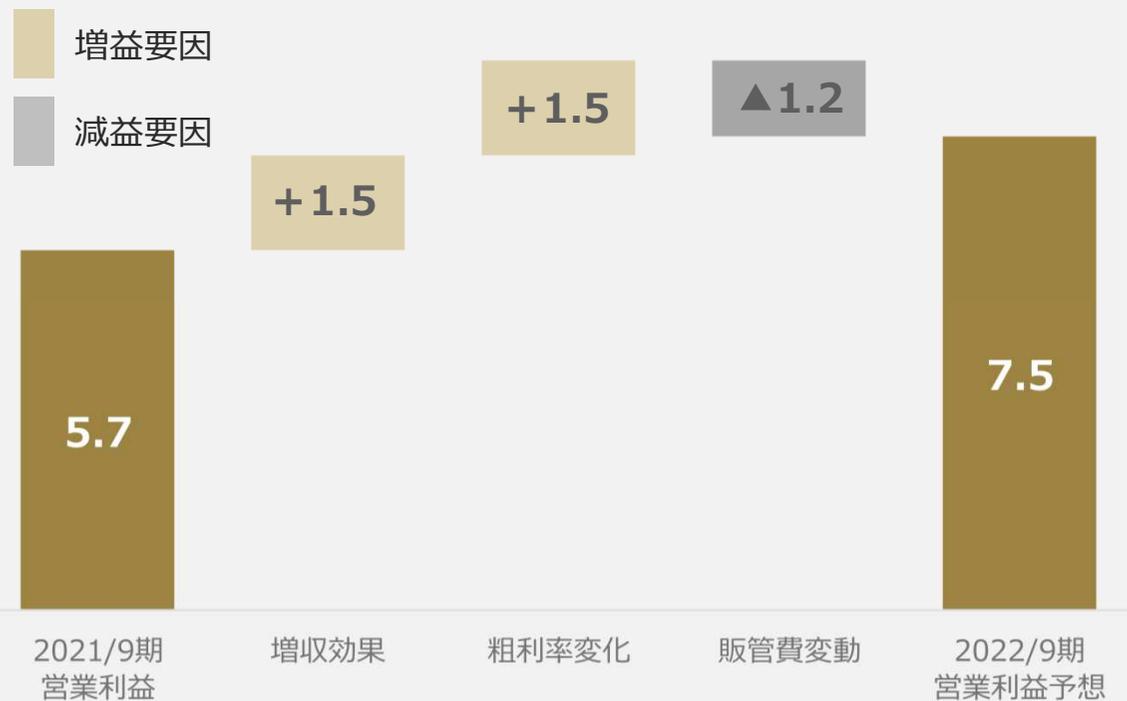


2022年9月期 営業利益増減要因分析

- 増収効果と大型案件の増加や深耕営業による粗利率改善が増益を牽引する見通し
- 一方、営業力強化のための新卒採用等により人件費が上昇。営業経費の上昇も加わり、コスト面では増加が不可避と想定。それでも増収効果などで吸収し、営業増益となる見通し

営業利益 想定増減益分析

(億円)



- 売上高の増加 +1.5億円
医療機器の一括販売案件に加え、一括販売に準じる大型案件の伸張が増収の牽引役。スポット的な案件受注も好調に推移する見通し
- 粗利率変化 +1.5億円
医療機器の一括販売案件等の大型案件を中心に粗利率が改善
- 販管費変動 ▲1.2億円
メディカルトータルソリューション事業で営業力強化のための新卒採用等による人件費、訪問営業再開による営業経費の上昇等、コスト面の増加は不可避

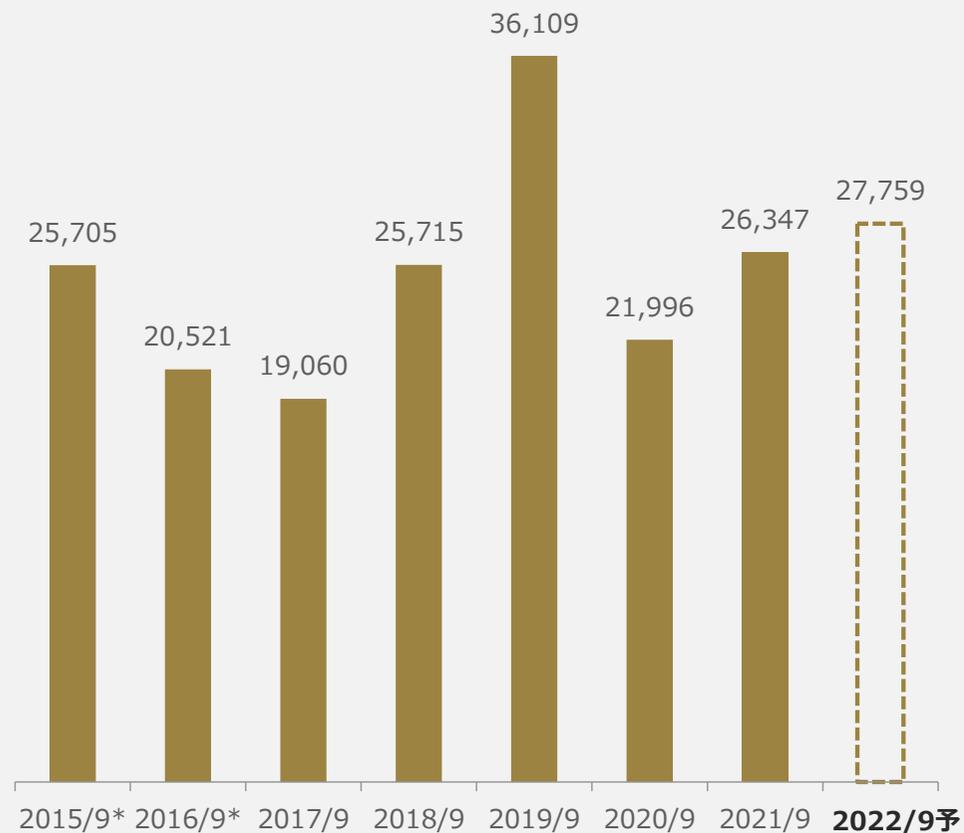


長期業績推移

- 狩猟型なため、業績面でのボラティリティ発生は不可避。特に、2019/9期は大型案件の売上が集中した結果、2020/9期はその反動が発生。2021/9期からは緩やかな回復基調に反転
- 2022/9期も前年比増収・増益を想定

売上推移

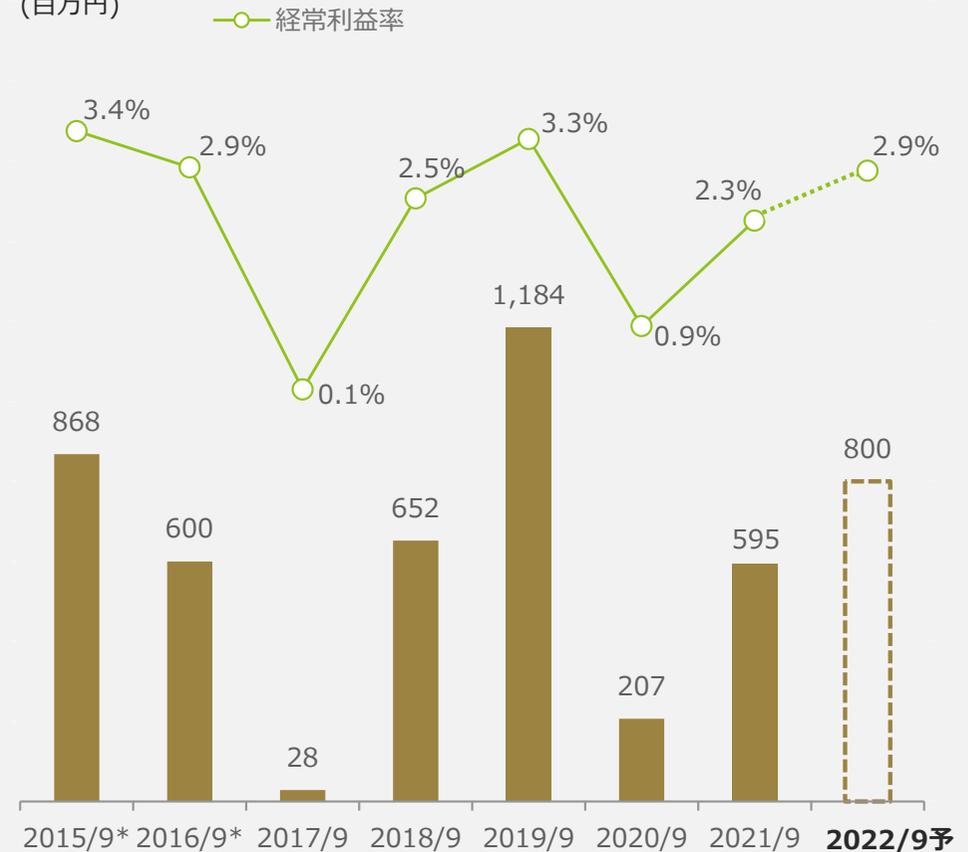
(百万円)



* 単独決算

経常利益推移

(百万円)





ビジネス環境

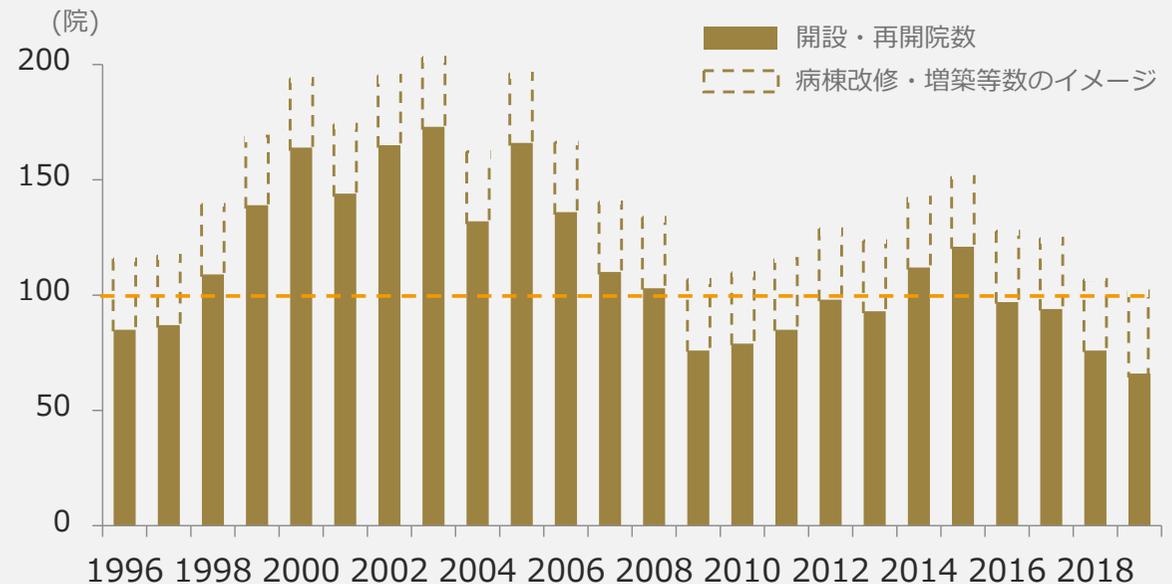
- 一般病院の2/3は稼働年数が20年超。新增改築の潜在需要は依然として大きい
- 開設・再開院数は2016年以降減少しているものの、開設・再開院数に集計されない病棟改修や増築等の案件も毎年一定数あり
- 直近は、コロナ禍や経営上の問題等から工事先送りも散見されるが、遠からず潜在需要が実需となり、今後も年間100件程度の新增改築案件が発生する傾向継続との見方に変化なし
- 当社は趨勢的に年間およそ14～15案件を受注獲得。営業力強化によって案件数拡大の余地は大

＜全国一般病院の稼働年数＞

当社の
潜在顧客層



＜全国一般病院の開設・再開院の推移＞



出所：厚生労働省 医療施設調査

シェアは2019年度時点の一般病院数7,246院に対して、過去20年以内の開設・再開院数より算出



業績・財務ハイライト

決算年月		2017年9月	2018年9月	2019年9月	2020年9月期	2021年9月期	2022年9月期 1Q
売上高	(千円)	19,060,958	25,715,941	36,109,029	21,996,890	26,347,156	10,678,014
経常利益	(千円)	28,463	652,381	1,184,035	207,244	595,939	582,786
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)	242,509	357,645	732,959	120,839	390,983	388,148
包括利益	(千円)	290,524	396,399	735,628	141,111	427,266	406,754
資本金	(千円)	123,000	331,507	331,507	536,169	539,369	539,369
発行済株式総数(自己株式を含む)	(株)	4,920	1,784,000	1,784,000	1,954,400	1,960,800	1,960,800
純資産額	(千円)	2,905,240	3,682,163	4,340,511	4,817,569	5,159,691	5,482,017
総資産額	(千円)	12,047,141	12,875,910	12,814,634	13,414,303	12,964,840	18,353,021
1株当たり純資産額**	(円)	2,870.05	2,016.04	2,376.58	2,408.78	2,567.33	2,722.91
1株当たり配当額	(円)	4,000	40.0	40.0	45.0	40.0	—
1株当たり当期純利益**	(円)	246.95	323.64	411.31	62.51	199.92	197.96
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	(円)	—	—	—	61.85	198.33	197.63
自己資本比率	(%)	23.4	27.9	33.0	35.1	38.8	29.1
自己資本利益率	(%)	9.0	11.2	18.7	2.7	8.0	7.5
配当性向**	(%)	8.1	12.4	9.7	72.0	20.0	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲718,460	962,625	2,764,536	▲1,906,273	1,298,076	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	107,722	▲52,847	▲91,784	▲63,598	▲42,129	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲7,334	203,275	▲213,022	238,372	▲298,007	—
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	2,589,499	3,702,552	6,162,281	4,430,782	5,388,721	—
従業員数	(人)	147	153	155	157	162	167
(外、平均臨時雇用者数)	(人)	(37)	(38)	(39)	(54)	(58)	(57)

**2018年9月13日付で株式分割（1:200）を実施。2017年9月期期首に当該株式分割が行われたものと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益及び配当性向を算定しております。



ご留意事項

当資料は、当社の現状をご理解いただくことを目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料に記載されている内容は、当資料発表日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断される一定の前提に基づく計画、期待、判断を根拠としております。したがって、実際の業績等は、経済情勢等様々な不確定要素の変動によって、記載の業績予想等と異なる結果になる可能性があります。実際に投資を行う際のご決定は、必ず投資家ご自身の判断に基づきなされるようお願いいたします。

株式会社レオクラン
IRサポート担当
TEL : 06-6387-1554
Email : ir-support@leoclan.co.jp